

ボルチモアの観光政策及び主な観光資源について

高木 大介 ワシントン国際問題研究所研究員

1 はじめに

ボルチモアはメリーランド州にある同州最大の都市であり、どの郡にも属さない独立都市である。古くから天然の良港として知られ、17世紀初頭に定住が始まり、イングランドとのタバコ貿易の中心地として発展し、またカリブ海産の砂糖の貯蔵地にもなった。「ボルチモア (Baltimore)」の名前は、アイルランドにその由来があると言われている。メリーランド州の起源となったメリーランド植民地の建設の立役者であるアイルランド貴族院議員の第2代ボルチモア男爵、シラス・カルバート (Cecilius Calvert) の爵位からとったという説が有力である。なお、この爵位の名は、アイルランドの南部コーク州にある都市、「ボルチモア」に由来し、アイルランド語で「大きな家の町」を意味する「バイレ・アン・ティー・モイル (Baile an Tí Mhóir)」から転じたものである。

ボルチモアは米国で最も古い都市の一つであり、南北戦争の舞台にもなったほか、合衆国の国歌や星条旗もこの地で誕生した。また、北米大陸初の鉄道であるボルチモア・オハイオ鉄道が生まれたのもここボルチモアである。1904年にはダウンタウンで大火災が発生し、30時間余りで1500棟以上の建物が消失するという大惨事に見舞われたが、結果的にその後の現代的な計画都市の発展を可能にすることとなった。前述のとおりボルチモアは良港として知られており、漁港としても貿易港としても栄え、第一次、二次世界大戦時には造船港としても機能した。

ボルチモアの人口は2010年の国勢調査の時点で620,961人であり、米国国勢調査局の暦年の推計によれば、2018年時点の人口は602,495人となっている(次回の国勢調査は2020年の予定)。人種構成は、白人が29.6%、黒人・アフリカ系が63.7%、先住民が0.4%、アジア系が2.3%、その他の人種または混血が3.9%となっている。男女比率は47.1:52.9と女性の方が多く、年齢構成は20歳から64歳までが人口の63.3%を占めており、20歳未満が24.9%、65歳以上が11.8%

となっている。

2 ボルチモアの観光政策について

まず初めに、ボルチモアにおける2018年の観光にまつわる数字を見ていきたい。ボルチモアの2018年の来訪者数はのべ2,670万人であり、対前年比で2%の増加、対2012年比で14.6%の増加となっている。続いて来訪者の滞在中消費額はおよそ59億ドルであり、対前年比で2.5%の増加、対2012年比で15.8%の増加となっており、どちらの数字も増加傾向にあることが分かる。来訪者を目的別に区分すると、およそ半数の52%が友人や親せきを訪ねる目的で来訪しており、27%がマーケティングに影響を受け訪れた観光客、17%がビジネス、4%がビジネス及びレジャーとなっている。滞在日数では、全体のうち1,600万人が日帰り滞在で、残りの1,070万人が宿泊を伴う滞在となっている。なお、訪問者の平均滞在日数は2.4日となっている。

続いてボルチモアの観光政策であるが、現在、ボルチモアでは、MICEの誘致に力を入れており、①業界見本市やイベントへの参加、②業界のパートナーシップやデータベースの活用、③主要産業に対するカスタマイズした入札提案の作成、④Hills Balfour (英国に本拠を置く観光系マーケティングエージェンシー)、Capital Region USA (CRUSA) (ワシントンDC、バージニア州、メリーランド州を国際的にプロモーションするマーケティング組織)、Brand USA (ワシントンDCに本拠を置く米国をプロモーションする観光マーケティング組織)、USTA (全米旅行協会)、メリーランド州観光開発局との戦略的提携の締結などを戦略として掲げ、以下の4点を目標としている。

- (1) 短期的なビジネスチャンスの創出による主要な地域市場と垂直産業への注力
- (2) 新興及び非伝統的な垂直市場におけるプレイヤーとの関係構築

(3) “Meet Local” の「価値創造」販売戦略に重点を置いた長期的な販促力の獲得

(4) 国内外のツアー市場の訴求と東海岸方面の旅程の奨励

ボルチモアでは 2019 年、のべ 346 個のイベントを実施または予定しており、およそ 59 万人を動員した。これらのイベントのために使用されたホテルの部屋は約 35 万室相当となり、3 億 1,500 万ドルの経済効果をもたらしている。一方で、ボルチモアの周辺地域ではより大きく最新のイベント施設を備えるようになり、機会の逸失が起きつつあることから、ボルチモアコンベンションセンターの拡張が喫緊の課題となっている。

また、ボルチモアでは、観光ブランディングの戦略として、①街中の新しい写真の広告宣伝への積極活用、②ニーズに応じたメッセージを用いながらボルチモアの文化や料理の再生を核としたマーケティングキャンペーンの展開、③ソーシャルメディアコンテンツの制作を拡大しながら地理的・文化的に影響力のあるブランドとのコンテンツパートナーシップの構築、④注目度の高いコンテンツの作成と人とのつながりに焦点を当てたポップアップ体験の構築、⑤全国の新聞や雑誌、愛好家の出版物におけるタイムリーかつ注目度の高い報道の獲得などを設定し、以下の目標の達成を目指している。

- (1) “Visit Baltimore” ブランドの価値向上
- (2) 「なぜボルチモアなのか」に答える魅力的なブランドストーリーの作成と共有
- (3) 街中の素晴らしい資産の積極的な宣伝

3 ボルチモアの主な観光資源について

この章では、ボルチモアの主な観光資源について、「名所・旧跡」「美術館・博物館」「文化・教養」と分けて紹介する。

3.1 名所・旧跡

(1) インナーハーバー (Inner Harbor)

チェサピーク湾に面した一角は「インナーハーバー」と呼ばれるボルチモア最大の観光名所となっている。飲食店や土産物屋が充実したハーバープレイスを中心に、港に寄港する船と係留されているヨット群、観光客やそこで興行する大道芸人などが相まって、華やかな雰囲気を帯びたエリアである。コンベンションセンターもこのエリアに位置している。また、インナーハーバーには 1977 年に建てられた五角形の世界貿易センタービルがあり、高さ 131m で五角形の建築物としては世界最高の高さを誇る。

(2) フラッグハウス (Flag House & Star-Spangled Banner Museum)

イギリス軍の砲撃を受けながらもマックヘンリー要塞にはためいていた星条旗を縫ったメアリー・ピッカーズギル (Mary Pickersgill) の住居だった建物が博物館となっている。1793 年に建てられた家が公開され、星条旗を製作した部屋や当時の様式の家具などが見学できる。メアリーとその娘は星条旗を 6 週間で縫い上げ 405.90 ドルの製作費を得たという。なお、メアリーたちが縫った星条旗はワシントン DC のアメリカ歴史博物館に所蔵されている。

(3) ボルチモアバシリカ (Baltimore Basilica)

1806~1821 年に建てられた米国最古のローマ・カトリックの大聖堂であり、堂内のチャペル、地下室、博物館を案内するツアーが行われている。

(4) ジョージ・ピーボディー図書館 (George Peabody Library)

1857 年に創立した全米最古の音楽学校であるピーボディー音楽学校の校内にある図書館であり、「世界一美しい図書館」とも言われている。中央部の吹き抜けを囲む 5 階分のバルコニー鉄細工と白と黒の大理石の床が特徴的で、図書館利用者でなくとも見学が可能となっている。

(5) マックヘンリー要塞 (Fort McHenry National Monument and Historical Shrine)

インナーハーバーの南東、パタプスコ川に少し飛び出た半島に位置しており、上空から見ると星の形をした要塞となっている。米国の国歌『星条旗 The Star-Spangled Banner』の発祥の地でもある。この要塞は 1776 年に完成し、1812 年から始まった米英戦争中にイギリス軍と最も熾烈な戦いが繰り広げられた 1814 年 9 月 13 日、イギリス軍の無数の砲弾を浴びたものの被害は微々たるもので、要塞に立つ星条旗は力強くはためいていたと言われている。この星条旗を見た弁護士フランシス・スコット・キー (Francis Scott Key) が感激し、『星条旗』の詩を詠み、その後メロディーが付けられ、1931 年に国歌となった。

3.2 美術館・博物館

(1) 国立水族館 (National Aquarium)

1981 年に完成し、設計は大阪の海遊館も手掛けたピーター・シャーメイェフ (Peter Shermayeff) が手掛けている。生物は魚類だけでなく、鳥類、爬虫類、両生類、海洋哺乳類など約 700 種、2 万匹以上に及ぶ。館内には、メリーランド

州の山や湿地帯、海を再現したエリアもあり、北オーストラリアの峡谷を再現した展示では、エリマキトカゲやクロコダイル、オーストラリア固有の肺魚などが飼育展示されている。

(2) アメリカンビジョナリー美術館 (American Visionary Art Museum)

全米でも数少ないアウトサイダーアート（芸術の専門的教育を受けていない人によって作られた芸術作品）を専門とする美術館であり、1995年に開館した。展示される作品は生活の周りにある様々なものが素材として使われており、作者も主婦や機械の修理屋、身体障害者やホームレスなど多様である。ボルチモア出身のアーティストに焦点を当てた特別展示なども開かれる。

(3) 鉄道博物館 (Baltimore & Ohio Railroad Museum)

米国最古の鉄道駅であるマウントクレア駅が現在は博物館となっている。実際に稼働していた蒸気機関車をはじめとして、歴史的車両約 250 点、ミニチュアの模型約 1 万 5000 点、鉄道に関する史料価値の高い写真など約 10 万点が、ラウンドハウスと呼ばれる円形機関車庫を中心に收藏されている。車両のほかにも、レールやエンジンの変遷、駅時計の展示などもある。

(4) ウォルターズ美術館

古代エジプトから印象派まで約 5500 年にわたる約 3 万 2000 点の美術品を收藏する市営の美術館で、観覧者は無料で入場できる。鉄道事業で財を成したヘンリー・ウォルターズ (Henry Walters) が、両親が蒐集した美術品約 2 万 2000 点を一般の人にも見せたいとギャラリー事氏に寄付したことがこの美術館の設立のきっかけとなっている。設立以降も美術品は増え続け、エチオピア美術の收藏は当該国以外では最大となっている。日本の室町時代の美術、19 世紀の浮世絵なども收藏されている。

(5) ボルチモア美術館

アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、アジアの絵画、版画、素描、写真など古代から現代まで幅広い作品約 9 万 5000 点を收藏する美術館で、1914 年に設立された。ドイツ移民であったクラリベル・コーン (Claribel Cone) とエッタ・コーン (Etta Cone) の姉妹が世界中を旅しながら蒐集したコーン・コレクションが收藏品の基礎をなしている。19 世紀から現代の美術が充実しているが、その核をなしているのが 500 点以上のアンリ・マティスによる作品群であり、そ

の收藏数は世界最大と言われている。

3.3 文化・教養

(1) ベーブ・ルース

メジャーリーグのホームラン王として記録を次々と塗り替え、当時弱小だったニューヨーク・ヤンキースを強豪に変えた大打者であったベーブ・ルース (George H. Ruth) は、1895 年にボルチモア西のカムデンに生まれた。その国民的ヒーローの成果が保存され、博物館となっている。彼の生い立ちや半生を綴る写真、肖像画、愛用していた道具類などが展示されている。

(2) エドガー・アラン・ポー

世界的に有名な小説家であり、生まれはボストンながら 40 歳の若さで亡くなるまでその主な活動の場をボルチモアに求めた。ボルチモアのウェストミンスター教会の敷地内に彼の墓があり、教会では地下墓地の見学ツアーも行われている。

4 おわりに

ボルチモアが米国でも有数の歴史的都市だということは日本人にはあまり知られていないと感じる。首都であるワシントン DC からほど近いとはいえ、車で約 1 時間を要する物理的距離は、ワシントン DC 観光に組み込むにはいささか躊躇する遠さかもしれない。MICE への注力もアクセスの利便性と表裏一体の面があり、筆者が実際に訪れた際にも感じたことだが、陸路でのアクセスに配慮した駐車場の充実と、空路でのアクセスの観点からボルチモア空港 (BWI) のネットワーク拡充も行えればその観光政策がより高い効果を生むだろう。また、街の治安についても改善が必要だ。犯罪の発生率は全米平均よりも高く、日中の中心地は観光に問題はないとはいえ、イメージの払拭を図るには今以上の対策がとられるべきである。

【参考資料】

・ Visit Baltimore

<https://baltimore.org/>

・ ボルチモアの由来について

<https://www.irishcentral.com/roots/history/the-surprising-irish-origins-of-baltimore-maryland>

・ 米国国勢調査局

<https://factfinder.census.gov/faces/nav/jsf/pages/index.xhtml>

・ Visit Baltimore Annual Report & Business Plan

- ・ダイヤモンド社「地球の歩き方 2017～18 ワシントン DC ボルチモア アナポリス フィラデルフィア」
- ・ボルチモアの治安について
<https://realestate.usnews.com/places/maryland/baltimore/crime>